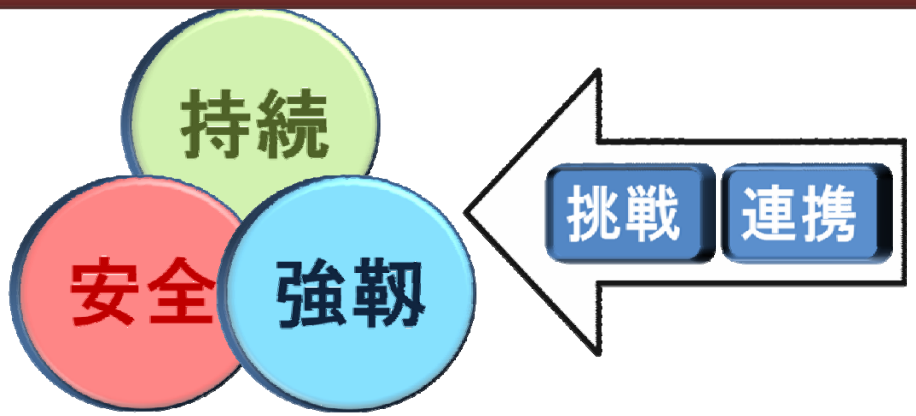
資料 1

新水道ビジョンの推進について



新水道ビジョン推進のための地域懇談会（第2回）
平成26年2月21日（金）
福岡国際会議場

新水道ビジョンの基本理念

水道ビジョン （平成16年6月策定・平成20年改訂）
【基本理念】 世界のトップランナーとしてチャレンジし続ける水道

■水道の事業環境の変化

枚挙にいとまがない課題
- 給水人口・給水量、料金収入の減少
- 水道施設の更新需要の増大
- 水道水源の水質リスクの増大
- 職員数の減少によるサービスレベルの影響
- 東日本大震災を踏まえた危機管理対策

■関係者が基本理念を共有し、一丸となった対応が必要

関係者が共有すべき理念
・これまでの130年間に先達が築き上げてきた地域の需要者との信頼に基礎を置き、地に足のついた対応を図る。

世界のトップランナーのバトンを未来へつなぎ、水道を次の世代に継承

新水道ビジョン
平成25年3月策定
【基本理念】地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道

（旧）水道ビジョンから新水道ビジョンへ

（旧）ビジョン
1） 持続 水道の運営基盤の強化
2） 安心 安心・快適な給水の確保
3） 安定 災害対策等の充実
4） 環境 環境・エネルギー対策の強化
5） 国際 国際協力等を通じた水道分野の国際貢献

新水道ビジョン

【現状】
現行の水道ビジョンから8年が経過して水道を取り巻く環境は大きく変化、課題は顕在化している。

【課題の明示】
○人口減少と水需要減少の時代における今後の水道のあり方を示す必要性
○東日本大震災を踏まえた水道の災害対策のあり方を示す必要性

水道の理想像

安全
安心して飲める水道
適正な水質管理体制
統合的アプローチによる対応

強靱
危機管理に対応できる水道
適切な施設更新、耐震化
被災してもしなやかに対応

持続
国民から信頼され続ける水道
長期的に安定した事業基盤
人口減少社会を踏まえた対応

国際展開　環境対策

実現方策

《関係者の内部方策》
水道施設のレベルアップ
資産管理、人材育成・組織力強化、危機管理対策、環境対策

《関係者間の連携方策》
住民との連携の促進、発展的広域化、官民連携の推進、技術開発、調査・研究の拡充、国際展開

《新たな発想で取り組むべき方策》
料金制度の最適化、
小規模水道対策、自家用水道対策、
多様な手段による水供給

連携
・関係者間での連携
・住民とのコミュニケーション

挑戦
・新たな取り組みに挑戦する姿勢
・事業環境に順応

新水道ビジョンの策定とその推進

新水道ビジョンの検討開始 （平成24年2月10日～ 計13回の検討会）

新水道ビジョン策定検討会（計13回開催）

新水道ビジョンを公表 （平成25年3月29日厚生労働省健康局長通知）

新水道ビジョンの推進（連携した取り組み）
（平成25年度～ ）

【 新水道ビジョン推進協議会 】
- 関係団体との意見交換
- ロードマップの共有（連携体制）
- 関係団体が実施する様々な情報をWEB上で発信

⇔ 水道関係団体等

厚生労働省主催

【 新水道ビジョン推進に関する地域懇談会 】
- 全国レベルでの新水道ビジョン浸透及び取り組みの展開
- 新水道ビジョンに関わる全国の様々な先進事例の収集
- 先進事例の幅広い地域への発信

⇔ 都道府県 水道事業者

新水道ビジョン推進協議会

新水道ビジョンに示された各種方策を推進するため、方策の実施主体となる関係者が実施状況を共有し、密接に連携するための枠組みとして開催。

新水道ビジョン推進協議会

構成メンバー

- （公財）給水工事技術振興財団
- 厚生労働省健康局水道課
- 国立保健医療科学院
- （一社）水道運営管理協会
- （公財）水道技術研究センター
- 全国簡易水道協議会
- （一社）全国給水衛生検査協会
- （公社）日本水道協会
- （一社）日本水道工業団体連合会
- 学識者

活動イメージ

平成25年度の活動
- ○第1回開催（8月28日）
  （1月、3月にも開催予定）
- ○先進事例の収集
- ○ロードマップの作成
- ○ウェブサイトの設置、運営

平成26年度以降
- ○推進方策の実施状況の検証
- ○ロードマップのリバイス
- ○新水道ビジョンのフォローアップ

連携 ⇔ 様々な機会において情報を共有

行政機関（都道府県）
水道事業者
大学・研究機関

個別検討事項：安全 / 強靱 / 持続

挑戦 ⇔ **新水道ビジョン ロードマップ**

新水道ビジョンを踏まえた施策の推進とフォローアップ

新水道ビジョン推進のために 早期に取り組む主要な事項（厚生労働省）

～ 技術的支援 ～

【新水道ビジョン推進協議会における資料をベースに･･･】

（1）水安全計画の活用による水質管理促進
（2）水道水質に係る新たな項目設定
（3）重要給水施設配水管の優先的耐震化の推進
（4）耐震性能の評価と耐震化計画策定指針の改定
（5）アセットマネジメントの活用促進、導入状況を把握
（6）発展的広域化の推進（都道府県の指導力に期待）
（7）料金制度の最適化

地域水道ビジョンの推進（都道府県水道ビジョン・水道事業ビジョン）

■厚生労働省が示す水道のビジョン

水道ビジョン策定（平成16年6月） → 水道ビジョン改訂（平成20年7月） → **新水道ビジョン策定**（平成25年3月）

地域水道ビジョンによる各種施策の積極的な推進

■都道府県水道ビジョン： 都道府県水道行政として作成すべきビジョン

- 広域的水道整備計画及び水道整備基本構想について（平成20年7月29日付け健水発第0729002号）

手引き

- 新水道ビジョンを踏まえて、都道府県水道行政が示すべきビジョンを**「都道府県水道ビジョンの手引き」**として、作成を推奨する旨を通知予定（H25年度）

■水道事業ビジョン： 水道事業者等が作成すべきビジョン

- 地域水道ビジョン作成のについて（平成17年10月17日付け健水発第1017001号）

手引き

- 新水道ビジョンを踏まえて、水道事業者等が施策を着実に推進するための**「水道事業ビジョン作成の手引き」**として、通知予定（H25年度）

関係者が連携した地域水道ビジョンづくり

ビジョン策定（改訂）の検討 → 策定 → 戦略的アプローチによる体制強化 → 計画等の推進 → ビジョンに掲げる施策の実行

【解決しなければならない課題】	【戦略的アプローチ】	【推進する実現方策】
・人材の不足 ・施設の老朽化 ・困難な財政事情	**・アセットマネジメント** **・水安全計画** **・施設耐震化計画**	・持続、安全、強靱のための具体的施策の展開（新水道ビジョン第7章「重点的な実現方策」を参考）

○発展的広域化の推進 ・ 実効性の高いビジョンづくりを目指す

- ✓ **都道府県**
  都道府県ビジョンを策定して、都道府県内の水道事業が行うべき取り組み（水道事業ビジョンや戦略的アプローチ推進）を支援し、リーダーシップを発揮する。
- ✓ **水道用水供給事業者**
  受水団体からの意見を徴収し、地域のニーズにあった水道事業ビジョンを策定して、広域水道としての新たな役割を認識した上で、ビジョンを通じた水道事業者の支援を展開し、都道府県の取り組みに協力する。
- ✓ **地域の核となる水道事業者**
  自らが高いレベルの技術力の確保や国際展開等に留意しつつ、周辺の中小規模水道事業を支援する役割を意識した水道事業ビジョンを策定して、都道府県等と連携しながら発展的広域化により地域を牽引する。
- ✓ **中小規模水道事業者**
  新水道ビジョンにおいて最も重要なプレイヤーとして、地域間での連携を図りつつ、水道事業ビジョンづくりに積極的に取り組み、まずは戦略的アプローチによる体制強化を図る。

戦略的アプローチによる取り組み

短期的な目標設定

■課題解決のための**戦略的アプローチ**により、新水道ビジョンの推進に取り組む。

- ✓ 持続　・・・ アセットマネジメント　（事業運営基盤を強化）
- ✓ 安全　・・・ 水安全計画　（水質管理体制を強化）
- ✓ 強靱　・・・ 施設耐震化計画　（施設の災害対応力強化）

中長期では、再構築計画も視野に入れて進める。

（※）当面の目標（平成29年度を目途）として、全ての水道事業者が対応できるよう、関係者の役割を分担して、それぞれの取り組みを進める。

着眼点

□中小規模の水道事業者が単独での対応を困難とするときは、都道府県による支援（専門のアドバイザリー的人材支援など）又は地域間の連携（勉強会や事例収集）による取り組みの推進を図る。
□同時に、戦略的アプローチを通じて、水道の発展的広域化の推進を図る。

新水道ビジョン推進に関する地域懇談会

1 開催概要

新水道ビジョン推進に関する地域懇談会（（以下「懇談会」という。）は、全国各地の水道事業者等による各種推進方策について、その取り組みの内容を都道府県及び水道事業の担当者らが情報共有するとともに、全国的に広くそれを発信して、地域内の連携を図り、新水道ビジョンに示した施策を積極的に推進することを目的とし、厚生労働省の主催で開催するもの。

これまでの開催概要と今後の予定は、下表のとおり。

2 開催趣旨

各地域における先進的な取り組みを実施している水道事業におけるキーマンをゲストスピーカーとして招聘し、話題提供をいただくとともに、比較的少人数でのフリーディスカッションを展開して、課題解決へのヒントを探る。

3 開催イメージ

3～4ヶ月間隔を目処に全国各地区において順次開催する予定。
平成25年度に2箇所実施。平成26年度には4箇所にて開催を計画しており、全国各地にて開催したい。

ゲストスピーカーのテーマごとに3コーナーに分かれてディスカッション（盛岡市にて）

開催日程	開催概要	先進事例
《 第1回 》 平成25年11月25日（月）	対象地域　北海道・東北地域を対象に開催 開催場所　岩手県盛岡市 参加人数　7道府県から計64名	ゲストスピーカー3名 北海道（官民連携を視野に入れた広域的連携） 八戸圏域水道企業団（県域を越えた発展的広域化推進） 岩手県矢巾町　（住民との連携）
《 第2回 》 平成26年2月21日（金）・予定	対象地域　九州・沖縄地域を対象に開催 開催場所　福岡県福岡市 参加人数　8県から100名程度を想定	ゲストスピーカー4名 北九州市（中核的な水道事業の広域化） 大牟田市（共同浄水場と官民連携） 宮崎市（多様な手法による水供給の取り組み） 沖縄県（県が主導する広域化検討）
《 第3回～》 平成26年度以降	対象地域　（イメージ） 関東地域、中部北陸地域、関西地域、中四国地域においてそれぞれ開催したい。	各地において、新水道ビジョン推進のため参考となる先進的事例等を実際に取り組むキーマンの方にゲストスピーカーを依頼する。

地域懇談会に期待するもの

1 都道府県を超えた連携

✓ 全国各地の水道事業において、課題を解決するための様々な取り組みが検討され、実現しようとしている。
✓都道府県を超えて、先進的事例の情報交換を行い、地域にマッチした課題解決の手法を見出すことに期待するもの。

2 新たな試みの事例紹介

✓ 新水道ビジョン第7章に掲げる「重点的な実現方策」のメニューを中心に、実際に取り組みを開始又は完了した事例を広く紹介してもらう。
✓ これまでの紹介事例や今後予定される取り組みには、以下のようなものがある。

- **・発展的広域化**　（関係者間の調整手法、計画立案から取り組み過程におけるプロセス等）
- **・官民連携**　（民間企業との共同事例や活用スキーム事例等）
- **・住民とのコミュニケーション**　（お客様サービスの視点を積極的に導入した事例等）
- **・アセットマネジメントを活用した情報公開、広域化、財源確保策等**
- **・多様な手法による水供給**　（宅配給水や拠点給水など）
- **・料金制度の最適化**　（地下水を使用する専用水道等への対応策等）

期待すること

□ 地域懇談会の成果、意見等は、厚労省においてロードマップの作成及びその後のフォローアップの参考とする。

■都道府県域を超えた先進事例の周知と地域へのマッチング
■先進的取り組みのノウハウを共有し、広く導入しやすい環境を整備
（ポータルサイト等での情報の発信と活用しやすいツールの検討）
■国や都道府県行政も先進的取り組みを後押しし、連帯感を醸成
（制度的問題のアドバイスにも技術的に支援）
■率先して行う取り組み事例に対して、関係者間での支援
■地域から発信した取り組みを全国に展開　（双方向の議論）

本日は、

４名のゲストスピーカーの方々、
ご準備いただきありがとうございます。

そして、本日お越しの水道関係者の皆様方には、地域における水道の将来のために、課題解決のヒントを入手していただき、今後の対策に活かしていただけることを期待しています。